

レポート! 授業No.049 「キラキラ・ピカピカ・ふわふわ~横手小学校アート回廊~」

2015年 9月 4日 (金) 福岡県福岡市立横手小学校 講師：塩川岳

49回目の出前アート大学は、東京から飛行機で2時間、福岡県の横手小学校の2年生75名の元気いっぱいな子どもたちへアートの授業を出前しました。講師には現代美術家の塩川岳さんを迎え、「キラキラ・ピカピカ・ふわふわ~横手小学校アート回廊~」という6つの大きな作品を制作しました。普段からワークショップや体験型の作品を数多く手がける塩川先生の授業のテーマは、「五感を使った作品制作と体験」。図工の授業では個人制作がベースとなっているため、「ダイナミックな協同制作を体育館で行いたい!」という小学校からの要望と合わせ、授業を作り上げました。さらに今回は福岡支部との連携授業という校友会の初の試み。こどもとおとな、東京と福岡の出会いあふれる開催となりました。

2015.9.4 fri. 08:45 ~ 09:15 (1時間目)

校友会からの挨拶と講師紹介(体育館)

体育館には、前日に東京と福岡のスタッフ20名で組み立てた6つの作品の骨組み。園芸パイプを三角柱に組んだ「キラキラ」、木材を小屋状に組み立てた「ピカピカ」、そしてブルーシートが敷かれたまだ何も無い「ふわふわ」。3つのテーマの作品が2つずつ、計6つの作品の骨組みを通り抜け、緊張とわくわくでみなぎる子どもたち75名が体育館に集まりました。元気で気さくな横手小学校の校長・古田秀人先生のご挨拶で第49回出前アート大学がスタート! 今回の担当理事である岡田理事からの出前アート大学の紹介とご挨拶に続き、東京から11名、福岡支部から7名、見学者を含め総勢20名の出前スタッフが子どもたちに自己紹介とご挨拶。「宜しくお願いします!」という大人1人1人に、元気な声で「宜しくお願いします!!」と答える子どもたちが印象的でした。「私たちはみんなのイメージをカタチにする、お手伝いをしにきたよ」と伝え、最後は塩川先生のご挨拶。プロジェクターでこれまでの塩川先生の作品を子どもたちに紹介しました。子どもたちはどんな作品を制作するか、イメージできたかな?



09:15 ~ 10:00 (1,2時間目)

制作開始!

事前に1クラスを2つに分け、6つのチームに分かれていた子どもたち。各チーム担当の出前スタッフの誘導の元、自分のチームで制作する作品の骨組みの元に移動し、チーム担当の出前スタッフが制作内容を説明。いよいよ制作開始! 子どもたちのわくわくは全開です。

キラキラチームは用意されたセロファンやカラービニール袋、アルミホイルなど、透過性と反射性のある素材を壁材として三角形の支柱に貼っていきます。手が届かない高いところは出前スタッフでフォローし、テント状の作品を制作していきます。入口と出口の設定も、忘れずに!

ピカピカチームは片面ずつ黒と白で塗装された段ボールを、壁材として木材の支柱に布テープで貼っていきます。大きい段ボールに早速テンションがマックスな子どもたち。大人が支えて子どもたちが貼って...白は外側、黒は内側だよ、間違えないで!

ふわふわチームは色とりどりのカラービニール袋を2人ペアになり、ハサミでどんどん展開していきます。はさみを上手に使う2年生、ビニールを切るのはちょっと難しいですが、協力しあって頑張っています。

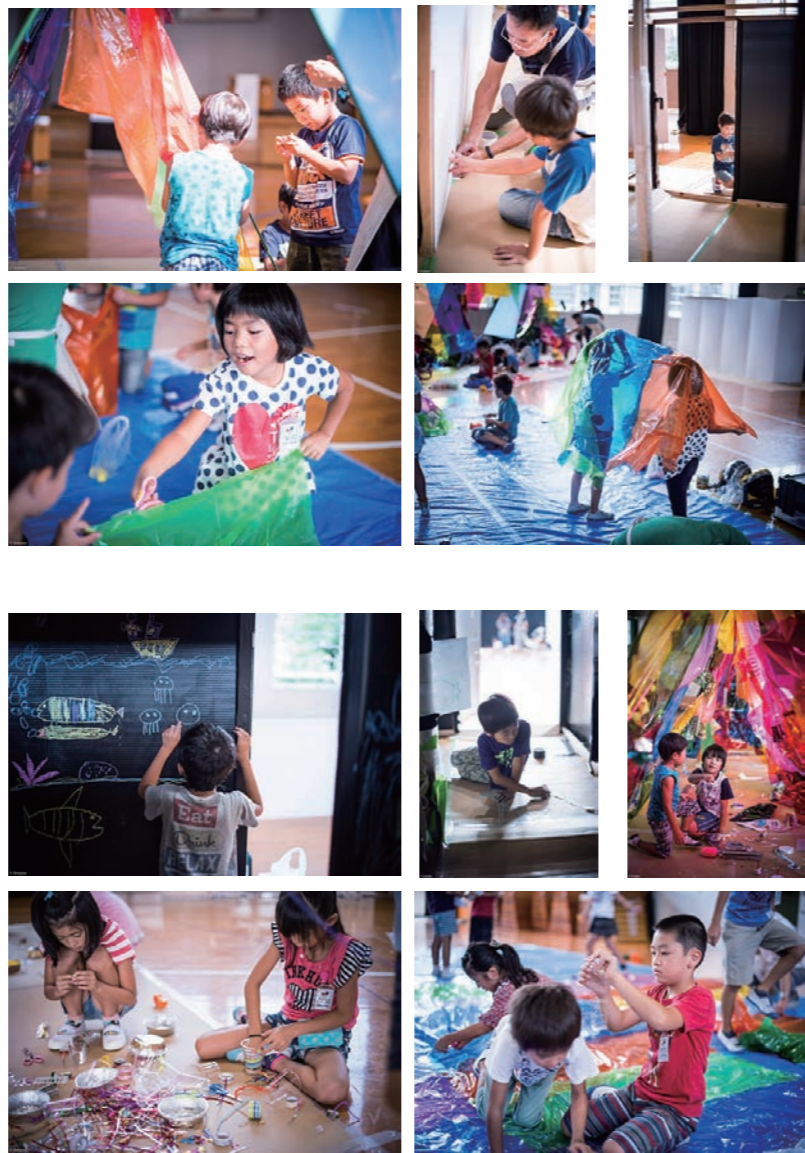
10:00 ~ 11:05 (2,3時間目)

次の行程へ

三角形の支柱に様々な色が重なり始めた「星」と「おうち」がテーマのキラキラチーム。クリスマス用の装飾やモール、ガチャガチャケースを使って思い思いのキラキラパーツを作っていきます。ついつい細かい制作になりがちなのチームでは、こまめにチーム全員での作戦会議を行い、作品をどうしていくかを話し合っていました。

板段ボールで側面と天井を覆われた薄暗い小屋の中では、「海の中」と「おぼけの家」がテーマのピカピカチームが一生懸命絵を描いています。ノックして中に入ると元気に応答してくれる子どもたち。そんな子どもたちが手にしているのはチョークやボスカ。これらはすべて蛍光色です。うす暗い小屋の中で、蛍光色で描かれる絵は全然見えないけれど、これからどうなるのかな?

展開された色とりどりのカラービニール袋をパッチワーク状に床に敷き、その上で真剣に作業をしているのはふわふわチーム。普段は使わない様な大きな透明テープで一生懸命カラービニール袋を1枚につなげていきます。同じ作業の繰り返しでちゃんと飽きちゃったかな? 作品の完成目指して、一緒に頑張ろう!



11:15 ~ 12:20 (3,4時間目)

いよいよ作品完成!

10分間の休憩をはさみ、引き続き黙々と作業する子どもたち。細かな作業に夢中だったキラキラチームは作戦会議の甲斐あり、出入口が小さくなる程たくさんの色と素材を重ねた空間ができあがりました。細かい折り紙をタイル状につなげて壁材にしたり、糸を張り巡らせ蜘蛛の巣状の壁にしたり...。そしてその制作方法を、見事にグループ内でシェアしています。細かな作品の設置も話し合い、エリアに分けたりして1つの空間に落とし込み、子ども達の工夫あふれる作品が完成しました!

一方バンバンと音が鳴るピカピカチームは、チョークの粉をつけた手で外側に手形をつけています。入口のドアには作品名も描いてある! 内部はびっくりするほどたくさんの絵が描かれていました。さらにコピー用紙を切り抜いたものをぶら下げたり、ぶつかる可能性のある内部の柱に貼付けたり。体中チョークだらけにした子どもたちの、元気な作品が完成!

ちょっと遅れ気味だったふわふわチームも一致団結し、1枚の大きなカラービニール袋のパッチワークができました。下に敷いていた白いビニールシートと重ね合わせ、その上にロープで好きなカタチを象り、ハサミで切り抜きます。なかなかゴールが見えない制作にも関わらず、最後まであきらめず2枚の端をテープでつなぎ、最後に絵を描いていよいよ完成! チームワークで作品を完成させました。

最後は6つの作品の出入口を、マットや跳び箱などの体育館備品やロープ、板段ボールなどの「道」で1つにつなぎ、大きな1つの作品が完成! 午後はいよいよ完成した作品で遊びます。

14:10 ~ 15:30 (5,6時間目)

作品体験タイムと感想発表

給食をはさみ、体育館に集めた子どもたち。6つの作品に、用意されたそれぞれの仕組みの電源を入れる時がやってきました! 昼休みの間に出前スタッフが、反射性と透過性のある素材で作ったキラキラにはミラーボールを、暗闇の中に蛍光素材で絵を描いたピカピカにはブラックライトを、そしてビニール袋を大きなドーム状に制作したふわふわチームには送風機をセット。まずは各チーム自分の作品の体験です。自分の作品の中に入って...スイッチオン! 作品内部から、子どもたちの歓声と拍手が巻き起こりました。素材に様々な色が反射するキラキラ、暗闇の中絵が光るピカピカ、むくむく膨らんだふわふわ。自分たちが制作した作品の変化に感動し、達成感あふれる子どもたちに、引き続き他チームの作品体験もしてもらいました。途中1,3,4,5,6年生が体育館に訪れ2年生の作品の体験をすることになり、喜ぶ他学年の姿を見る2年生。「2年生すごいな!」という他学年に、「ここ、私が作ったんだよ」と自慢気でした。自分が制作した作品を見せる体験は、どうだったかな? 最後の感想発表ではみんな元気に挙手をし、「楽しかった」「出前アート大学の人たちに手伝ってもらえて嬉しかった」「またやりたいです」と緊張しながらもマイクを握り、発表してくれました。講師の塩川先生も「それが一番嬉しい言葉です」と嬉しそう。こうして49回出前アート大学は修了となりました。

まとめ

今回の出前アート大学では、小学2年生75名が6つの作品を協同制作で作上げ、素材・仕組み・そして作品を見事に五感を使って制作・体験することができました。真剣に話し合い、工夫し、素直に相手を受け入れながら一生懸命制作をする子どもたち。キラキラやピカピカのように「個人制作が集合した」共同制作の作品と、ふわふわのような「チームワークで制作した」共同制作の作品。子どもたちだけでなく、大人にとっても多くの発見と出会いのある授業となりました。また作品を「作る」だけでなく、他学年の子どもたちに作品を「見せる」時間は、学年の差を超えて多くの子どもたちが作品を体験し喜んでいる姿を見ることができ、制作者の2年生にとって誇りになる時間だったと思います。自分の作品はもちろんのこと、他チームの作品の完成や出前スタッフとの出会いに喜ぶ2年生の素直な反応に、たくさんの大人も笑顔になりました。

「楽しい記憶」 講師：現代美術家 塩川 岳 氏(1993年 多摩美術大学大学院 美術研究科修士課程 修了)

IT技術の進歩、スマホ、ゲーム、SNS...。バーチャルな世界を含め、子ども達を取り巻く環境はすさまじい変化の只中にある。1分前に地球の裏側で起きたことをもう知っている。こんなグローバルで情報が氾濫する世の中に生まれ、それがスタンダードな環境だ。自分が小学校2年生の頃を考えると、とくにニュータイプになってもおかしくないんじゃないか?と思うほどの変化だ。今回の「出前アート大学」に際して、小学校2年生に対して僕は一体何をすべきなのだろう?と真剣に考える。美術、図工、教育、少子化、ものづくり、技術、協働...。アートなのか? 図工なのか? 授業なのか?...。いやいや、もしかしたら小学校2年生にとって、そんなことはどうでも良いことなのかもしれない。たとえば20年後の同窓会の日「そんな事あったよね、なんか楽しかったよな」と鮮明にカラーでシーンが蘇ってくるような、75名の横手小学校卒業生の記憶の中に一瞬入り込む...。そんなプログラムにできればいいのかなと思う。



校友会理事5名、撮影スタッフ2名、事務局員2名
福岡支部のみなさん6名
塩川講師、多摩美学生スタッフのみなさん2名

■おわりに
第49回出前アート大学開催にあたり、横手小学校の古田秀人校長先生、担当教員の博多屋美香先生松尾睦子先生、河津桃子先生に多大なご協力を頂きました。また取材をして下さったNHK福岡放送局、読売新聞、西日本新聞、株式会社フラウ、南情報発信隊の担当者の皆様、税田支部長率いる福岡支部の皆様へ、心から御礼申し上げます。この日制作された作品の一部と、子どもたちの写真で作られたパネルは翌週から福岡市美術館にて福岡・佐賀・大分支部合同の「第10回 九州地区 多摩美術大学校友会展」で展示されました。